

■ 外科医学界の泰斗

鳥潟 隆三

とりかた りゅうぞう

出身地 大館市

1877年（明治10年）～1952年（昭和27年）

けっせいさいきんがく
血清細菌学を研究し、「イムペジン学説」を提
しょう
唱。外用薬「コクチゲン」を発明。平圧開胸術を
はいけっかく
考案して、肺結核外科手術の向上に貢献。鳥潟免疫
ふぞく
研究所と附属病院を設立。京都帝国大学教授、日本
ていこく
外科学会会長。



年 譜

- 1877年 北海道函館市に生まれる。その後、6歳まで
おおだて はなおか
父祖の地大館市花岡で過ごす。幼名・隆一。
- 1904年 京都帝国大学医科大学卒業、同大学助教授。
- 1910年 医学博士となる。
- 1912年 スイス・ベルン大学に留学。けっせいさいきんがく
血清細菌学を研究。
- 1917年 「イムペジン現象」を発表。帰国。とりかためんえき
鳥潟免疫研究所と
ふぞく
附属病院を設立。コクチゲンを発明。
- 1922年 京都帝国大学医学部教授、へいあつかいきょうじゅつ
平圧開胸術を研究。
- 1927年 日本外科学会会長。
- 1952年 おおさか ぼつ
大阪府で没。75歳。